

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
45	川崎市立西生田中学校	栗原 雅明

学校教育目標	今年度の重点目標
<p>考える力…確かな学力を育成する教育の推進 美しい心・実行力…人権尊重意識の向上・自主性を育成する教育の推進 健康…健康・安全教育の推進 特色・信頼…開かれた特色ある学校づくりの推進</p>	<p>◎生きる力の涵養 (1)確かな学力の育成(支援教育の充実、授業のユニバーサルデザイン化) (2)豊かな心の育成(自己有用感・豊かな心の育成、自他の生命を尊重する心の育成) (3)健康・安全教育の推進(健康・安全で活力ある生活を営む資質と能力の育成、健康・安全の管理) (4)地域とともにある学校づくりの推進(保護者・地域との連携、地域とともにある学校づくりの推進、定期的な情報の発信、コミュニティスクールとしての運営準備)</p>

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 確かな学力の育成	<p>①基礎・基本の学習内容の定着(授業力向上・学習会の充実) ②校内支援体制の充実 ③GIGA端末の活用実践</p>	<p>①指導主事の要請訪問を実施し、全教職員が研究授業を行った。指導主事と連携しやすい環境を整えることができた。一部の教科で授業の進捗の遅れが見られた。②通常の学級で、教科の枠を超えた教師の支援体制を確立して、サポーターも活用し、取り出しや入り込みによる個別指導を週29時間設定できた。③新型コロナやインフルエンザ等による臨時休業中のGIGA端末の活用については、さらに事例研究を進めていきたい。</p>	<p>①OJT研修なども活用し、さらに授業改善を進める。学習会の形態を充実できるよう工夫していく。進捗の遅れが出ないよう、年間指導計画に余裕を持たせて作製する。②学年支援コーディネーターを有効に活用し、支援を必要とする生徒への対応が組織的に行えるよう努める。校内での支援体制を一層充実させていく。③GIGA端末の有効活用についての研修等を行い、実践につなげていく。</p>
2 豊かな心の育成	<p>①生きる力の涵養を図るためのレジリエンス教育の推進、人権尊重教育の充実 ②計画的な教育相談の実施 ③校内いじめ防止対策会議の開催</p>	<p>①躓きや失敗する場面を成長の機会ととらえられるような励ましや働きかけをすべての教育活動を通じて実践した。人権尊重教育について全校で外部講師によるワークショップを行い、人権標語を作成し、生徒個人の人権意識を高めた。②教育相談を実施し生徒理解に努めた。③支援会議・職員会議・校内いじめ防止対策会議において、情報交換を行い、個々の案件について対応を協議し指導方針を定め実践した。</p>	<p>①共生共育プログラム・SOSの出し方・受け止め方教育を実践し、生徒の抱える課題の把握に努める。人権尊重教育について、外部講師を招聘した研修を継続する。②教育相談を実践しつつ、より効果的な方法、時期、回数などを検討していく。③すべての教育活動を通して、生きる力の涵養を図っていく。いじめは早期発見できるようチェック機能や教育相談の在り方を吟味し有効化を図る。</p>
3 健康・安全教育の推進	<p>①熱中症予防、感染症拡大予防に努める ②部活動の安全確保 ③防災訓練の計画的な実施</p>	<p>①熱中症予防を徹底するために、熱中症を扱った授業を行うとともに、心配される時期には、水分補給をしやすい環境を整えた。感染症拡大予防のための対応を随時行い、場合によっては行事の計画を変更した。②部活動の安全確保のためにガイドラインについての確認、部活数や活動時間の検討を行った。③地震や火災対応の避難訓練を行った。</p>	<p>①各種活動計画において、感染拡大予防対策が必要となった場合の想定も考慮して作成する。②部活動の安全な運営のために、活動時間、部活数、暑さ対策等の検討、ガイドラインの遵守などを継続して行う。③様々な災害時に対応できるよう避難訓練の内容を検討して実施する。</p>
4 地域とともにある学校づくりの推進	<p>①積極的な学校の取組の公開 ②PTAとの連携の充実 ③地域との連携の充実、学校運営協議会設置へ向けて</p>	<p>①学年だより、学級だより等での積極的な情報発信により学校での取り組みが伝わった。学校HPの活用については課題がある。②PTAのあり方についてPTA役員会、代表委員会にて検討を行いよりよい活動を検討できた。③4年ぶりに学校教育推進会議を対面で行った。地域とともにある学校づくりに向けて意見交換の場となった。学校運営協議会への移行について説明した。</p>	<p>①学校HP充実を図るために月予定の更新に合わせて定期的に発信していく。②PTAのあり方について改善した内容を実際に取り組みつつ、さらに検討を推進する。③学校教育推進会議では、令和7年度に学校運営協議会に移行するにあたって、その準備を進める。さらに地域とともにある学校づくりに向けて意見交換の場としていく。地域教育会議の組織作りに協力する。</p>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>アンケート結果から、安心して学校生活を送ることができているなどの肯定的回答が8割、設問によっては9割を超えているものもある。生徒の多くが、役割を担い活躍する場を持っている。行事や特別活動を自分事としてとらえ、主体的に活動していることが読み取れる。しかし、少数の否定的回答について丁寧に分析し対応をお願いしたい。学習評価、言葉遣いの指摘、教職員と保護者の話す機会を増やしてほしいなどである。授業の様子を見る機会がありうれしい。コロナが5類となって再開した行事などを含めた1年間の学校の様子がわかった。支援会議について、様々な生徒の状況に応じた会議体制が組まれており感心した。改善するには時間がかかると思うが、生徒達のために取り組みを続けていきたい。令和7年度に学校運営協議会に移行するにあたって、メンバーについては学校教育推進会議のメンバーに加え、西生田中学校に縁や思いをもち、協働していただける方に入っていただきたい。</p>	<p><今年度のまとめ>新型コロナウイルス感染症やインフルエンザの拡大が懸念される状況と行事が重なった場合、その運営については、苦しい判断を求められたが、教職員も生徒も冷静にその判断を受け止め、精一杯の取り組みをしてくれた。実施後の反省を通して、今後、同様の事態が生じたときを想定して対応を備えていきたい。支援会議を定期開催して、生徒のニーズを共通理解するなど対応を協議し支援を実施した。支援してもすぐに効果が見られないことが多いが、再検討したり、継続し続けてより良い支援となるようにしていきたい。 <次年度へ向けての取組>○生徒に重点的に身につけてもらいたい力を「表現力」と設定した。また、言葉の大切さに焦点を当て、生き抜く力の涵養をめざした教育を推進していく。○感染症拡大となる場合に備えた行事計画を立てていく。○不登校生徒への支援、支援教育の研究推進を図る。○授業力向上と精度の高い学習評価をめざして、教科ごとに外部講師や指導主事等を招聘した研修を推進する。○授業のユニバーサルデザイン化、GIGA端末のなお一層の有効活用を図る。○部活動の活動方針に則った適切な実施。○ノ部活デーや会議の組合せによる具体的な部活動ガイドラインの実施と働き方改革の実践を進めていきたい。</p>